

J-LIS紹介資料

令和7年11月

ICTイノベーションセンター 研究開発部



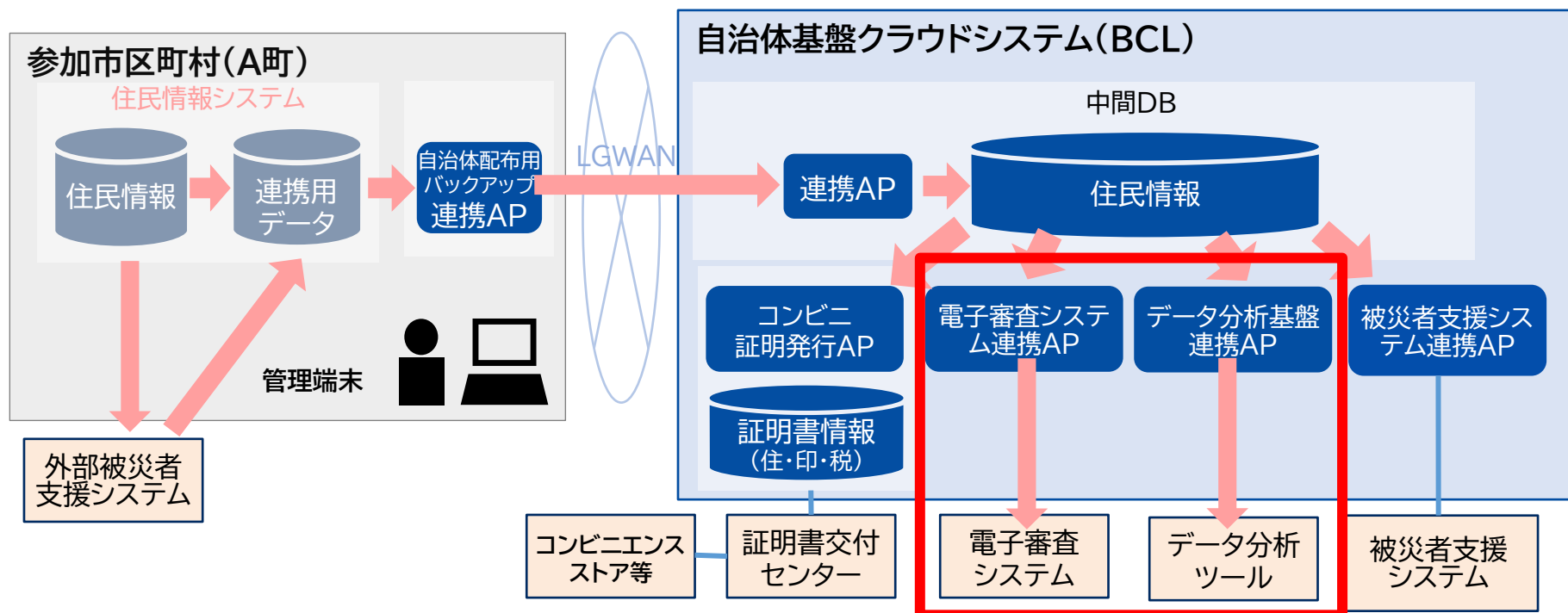
自治体基盤クラウドシステム（BCL）のさらなる利活用

BCL（Basic Cloud systems for Local government）とは

市区町村の庁舎内等に設置された住民情報システムの連携用データをBCP（業務継続計画）対策用に保管すると共に、連携データから必要な情報を取り出し、コンビニ交付サービス等の行政サービスが利用できるクラウドサービス。

LGWANという閉域な環境に設置されているため、安全に住民情報を取り扱うことができる。

- **BCLのデータ連携サービス**とは、
中間DBに格納した住民情報データを新しい行政サービスに連携するサービス
- **データ連携サービスで取り扱えるデータの種類等**
 - ・ 税や介護等基幹システム(20業務)
 - ・ 自治体業務標準化のIF仕様に合わせたデータ形式（基本データリスト）を採用



BCLが提供するデータ連携サービスのメリット

○ 標準化対応ゆえに部局横断の情報利用が容易

自治体で設置運用されている各基幹システムは、ベンダーや設計思想がシステムごとに異なるため、基幹システムを跨いだ情報利用には何らかの対応が必要。

一方、BCLの中間DBは、基幹システム20業務すべてのバックアップデータを一括管理できるため、バックアップデータをもとに部局横断の情報利用が容易。

○ 安全な環境で大切な情報を利用できる

実際にデータ連携サービスを担うアプリケーションは、BCL内に設置、つまり、LGWAN-ASPとして閉域な環境にサービスを立ち上げるため、大切な住民情報を安全に取り扱うことができる。

自治体

住民情報システム(基幹システム)



基幹システムごとに住民情報データはバラバラ

各システムからデータを取り出し連携が必要

新サービスA

新サービスB

自治体基盤クラウドシステム(BCL)

中間DB



基幹システム20業務のデータバックアップをまとめて管理(管理は自治体ごと)

サービスに応じて必要なデータを容易に連携可能

データ連携先サービスA

データ連携先サービスB

生成AIとAIエージェントの違い

生成AI

イメージ：賢いアシスタント

単発の指示・応答

文書等作成、翻訳、要約等



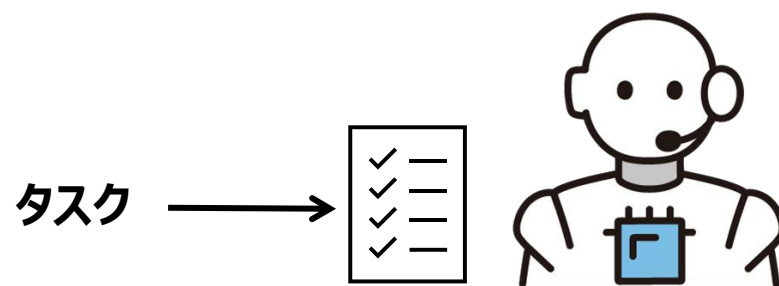
AIエージェント

イメージ：事務作業を自律的に
進めるパートナー

タスク遂行・調整

問合せ対応・業務自動化

タスクに特化したエージェント



自治体基盤クラウドシステム（BCL）のサービス拡大と将来展望

・自治体の意向に基づいたサービス提供の支援

⇒住民データと連動した申請・窓口業務の自動化でのAI活用
住民属性を踏まえたパーソナライズ支援

・住民の利便性向上及び自治体職員の負担軽減

⇒実証事業を通じてモデルを生み出すことで、汎用的な仕組みとして横展開。
利用自治体が拡大すれば、割り勘効果が発生し、自治体が安価にサービスを利用できる。

